

メッセージアウトライン 創世記6:9～22「ノアの箱舟」

[9]「これはノアの歴史である。ノアは正しい人で、彼の世代の中であって全き人であった。ノアは神とともに歩んだ」

「正しい」とは人として神の基準にかなったという意味。→6:8「全き人」とは健全な、責められるところのない者という意味で、罪がない人という意味ではない。彼の道徳的正しさと神への信頼と忠実さが強調されている。「神とともに歩んだ」とはエノク(5:24)の場合も同じであるが、まるで神の傍らに居るかのように神との親密な交わりをもって生きたという意味である。彼は神には近く、罪には遠い生き方をしていたのであろう。しかしそのように生きることができたのも神の恵みがあってこそである。それゆえ、ノアだけを別人、聖人、超人のように見てはならない。信仰者は同様に神の恵みにより頼みつつ、神とともに歩む生き方をすることができるのである。

[10]「ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤフェテを生んだ」

これはノアが五百歳の時のこと。→5:32「セム」は浅黒、「ハム」は黒、「ヤフェテ」は白を意味し、彼らが三つの民族の祖先となったという説があるが、詳しいことは不明である。ノアは信仰を持って神とともに歩んだ人であり、子どもたちに対しても父としての責任を十分に果たし、良い影響を与えたことは間違いなく、彼らもまた神に従う者となったのである。

[11-12]「地は神の前に墮落し、地は暴虐で満ちていた。神が地をご覧になると、見よ、それは墮落していた。すべての肉なるものが、地上で自分の道を乱していたからである」

「墮落、暴虐」これらのことばによって人間の悪の増大、深刻さが示されている。すべての肉なるものの墮落とは動物も含まれるのか。しかし、ここで述べられているのは、あくまでも道徳的墮落のことであり、それは人間以外の他の被造物には適用できない。しかし、動物も人間の支配下に置かれているものとして、人間に対するさばきをともに受けることになる。→6:7

[13]「神はノアに仰せられた。『すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ようとしている。地は、彼らのゆえに暴虐で満ちているからだ。見よ、わたしは彼らを地とともに滅ぼし去る』」

神がノアに語られたのは幻によったのか、夢によったのか、あるいは直接現れて語られたのかわからないが、神はすべての肉なるもの(人間)を地とともに滅ぼすと仰せられた。これは地上の一地域ではなく全世界を滅ぼす大激変を意味する。アダム以来の人間の罪と悪はここに極まったのである。

[14-16]「あなたは自分のために、ゴフェルの木で箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外にタールを塗りなさい。それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト、幅は五十キュビト、高さは三十キュビト。箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内に天窓を仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、箱舟を一階と二階と三階に分けなさい」

「ゴフェルの木」とは聖書中ここだけに出て来ることばで、どのような木か不明。糸杉との説もある。樹高が高く、堅牢な木材であったことは確かであろう。キュビトは肘から中指の先までを規準にしたものであり、さまざまな長さが知られている

がその中で最も短い長さの44.5cmと仮定し、これをもとに箱舟の寸法を計算してみると、箱舟の長さ133.5m、幅22.2m、高さ13.35mとなる。この船は現代の船のように船首と船尾がすぼまった紡錘形ではなく、箱舟という呼び名のとおり長方形の箱型をしており、内部は動力機関も何もなく全くの空間であった。それゆえその船の内部は約4万立方メートルの広さがあった。しかもその内部は三階に分けられることになっていた。ある学者の計算によればその船の内部には羊に換算して12万5千頭以上の羊を収容することができたという。各階は部屋で区分され箱舟の内と外は防水のためタールを塗る。タールとは樹脂、松やに、瀝青(アスファルト状物質)などを意味する。

さらに明り取りのため箱舟の上部には天窓を設けることと、側面に戸口を造ることが命じられた。

[17-18]「わたしは、今、いのちの息のあるすべてに肉なるものを天の下から滅ぼし去るために、地上に大水を、大洪水をもたらそうとしている。地上のすべてのものは死に絶える。しかし、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは、息子たち、妻、それに息子たちの妻とともに箱舟に入りなさい」

神は、ここで初めてノアにやがて来る滅びがどのようなものかを告げられた。それは人間を初め、いのちの息のあるすべて肉なるものを天の下から滅ぼし去るための大洪水であった。これは局所的なものではなく、全地を覆うすさまじい大洪水であった。それによって地上のすべてのものは死に絶えるのである。しかし、神はノアと契約を結ぶと言われた。その詳細は9:9～17節で詳しく述べられる。そして神はノアに彼とその妻、三人の息子たちとその妻だけが箱舟に入るように命じられた。合計八人である。長年にわたるノアの神を恐れ、神に従う正しい生き方、そして神に従うようにとの証しと勧めもなされたであろうが、それによっても悪と暴虐の満ちた世代の人々は神に立ち返ることはしなかったのである。

[19-21]「また、すべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつを箱舟に連れて入り、あなたとともに生き残るようにしなさい。それらは雄と雌でなければならない。鳥は種類ごとに、動物も種類ごとに、また地面を這うすべてのものも種類ごとに、それぞれ二匹ずつが生き残れるよう、あなたのところに来なければならない。あなたは、食べられるあらゆるものから採って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物のための食物としなさい。』」

ここにはノアの家族と動物たちが箱舟の中で生き残るための指示がなされている。雄と雌それぞれ二匹ずつというのは大洪水ですべてのものが死に絶えた後、地に再び増え広がるためであった。このようにして神は単に全世界を滅ぼしてしまおうとされるのではなく、その中であって救われるべきものを救うお方であること、そこに新しい希望が用意されていることを知るのである。

[22]「ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った」

ノアは神のことばを堅く信じただけでなく、そのことばに心から従った。神がノアに命じた仕事は途方もないもので、極めて難しく、しり込みせざるを得ないようなものであったが、それにもかかわらず、彼は疑ったりつぶやいたりせず神に従った。

箱舟の建造には長時間を要したことであろう(百年近くか)。その労苦がこの短いことばで要約されている。しかし、これはまた神とともに歩む者の真実を雄弁に語っている。神のさばきの予告を受けた者の厳粛な緊張感、滅びに向かう同胞への痛

みと悲しみ、そして神への信頼ゆえの敬虔さと熱心さがここに込められている。神に従う信仰者にとって「そのように行った」は明瞭な信仰告白となるのである。
→ヘブル11:7、Ⅱコリント6:1~2